自転車を安全で快適にご使用いただくために！

HYDEE.Ⅱ専用フロントチャイルドシート取扱説明書

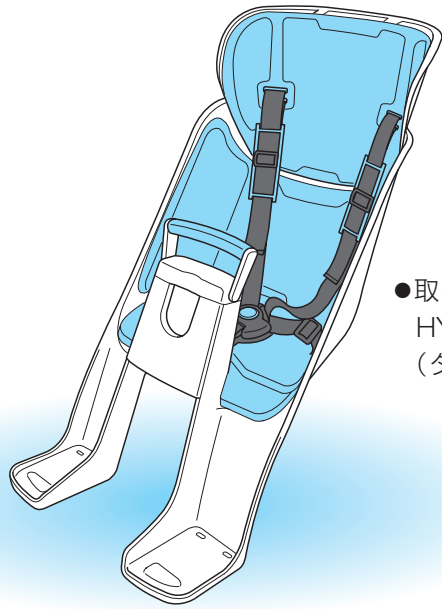
このたびは当社の製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

⚠ 警告

- この商品は適正な取り付けのため、自転車販売店で取り付けてください。正しく取り付けられていないままご利用された場合、ケガ、事故のおそれがあります。
- お客様の安全のために、ご使用になる前に必ずこの説明書をお読みください。読まれたあとは大切に保管してください。
- 適合自転車、幼児の適用範囲の記載及び取扱説明書の記載を守らない場合は、SG規格（製品規格）の補償対象外となる場合があります。
- 6歳以上のお子様を同乗させることは道路交通法違反となり、違反の場合はSGマーク制度の賠償外となる場合があります。
  ※SGマーク制度は、チャイルドシートの欠陥によって発生した人身事故に対する補償制度です。

⚠ 注意

- このチャイルドシートは「幼児2人同乗基準適合車」に対応しており、幼児2人同乗の認定を受け、当該チャイルドシートを指定している自転車に装着した場合のみ、幼児2人同乗してご利用いただくことが可能です。
  これ以外の車種に装着の場合は、幼児1名同乗でのご利用となります。
  詳しくは、ご使用になる自転車の取扱説明書をご確認ください。



- 取り付け可能自転車：
  HYDEE.Ⅱ
  （タイヤサイズ：26インチ）

目　次

- 警告表示について …… 2
- はじめに …… 2
  1. 乗車できるお子様について …… 2
  2. チャイルドシートを装着する自転車について …… 3
  3. 取り付け時の注意 …… 4
- ご使用時の注意 …… 5
  1. お子様をチャイルドシートに乗せる前は …… 5
  2. お子様をチャイルドシートへ乗せ降ろしするときは …… 6
  3. お子様をチャイルドシートに乗せたら …… 6
  4. 走行時は …… 7
  5. 幼児２人同乗時の注意 …… 8
  6. 保管のしかた …… 10
- 各部の名称 …… 11
- チャイルドシートの操作方法 …… 12
  1. シートベルトの調整 …… 12
  2. バックルの固定・解除 …… 13
  3. ヘッドガードの高さ調節 …… 14
- お子様の乗せ方 …… 15
- お子様の降ろし方 …… 15

ブリヂストンサイクル株式会社

警告表示

警告表示は危険度・重要度の程度に応じて次の区分で表示しています。これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、自転車が壊れるなどのおそれがあります。

表示の意味

⚠警　告	この表示の欄は、取り扱いを誤った場合、使用者が「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注　意	この表示の欄は、取り扱いを誤った場合、使用者が「傷害を負ったり、物的損害を負う可能性が想定される」内容です。
🛇禁　止	この表示の欄は、「安全上してはいけない危険行為および保証範囲外の行為を表す」内容です。
❗強　制	この表示の欄は、「使用者に必ず実行していただく」内容です。

はじめに

本商品のご利用にあたっては、以下に示す、ハンドルバー・ハンドルポストとお子様の制限をご確認の上、ご利用ください。

⚠ 警 告

- **推奨されていないハンドルバーやハンドルポストへの組み付けや、制限体重を超えたお子様を乗せて、ご利用された場合、商品の早期破損・折損が生じ、ケガ、事故のおそれがあります。**

1. 乗車できるお子様について

- お子様の体重（着衣を含む）
  8kg以上15kg以下のお子様が乗車可能です。
  参考
  - 使用年齢：1歳（12ヶ月）以上3歳（36ヶ月）未満
  - 目安身長：70cm以上90cm以下
  - チャイルドシート重量：3.1kg（シートクッション含まず）

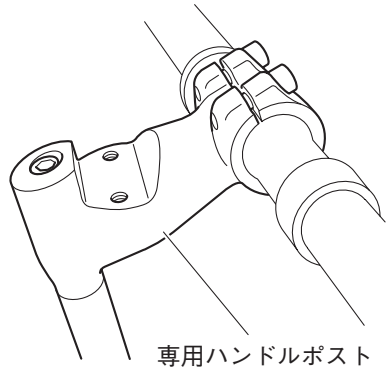
⚠ 警 告

- **上記の範囲内であっても、乗せるお子様の体格が大きくなるほど運転しづらくなります。**
- **お子様を乗せても、安全に運転ができることをご確認の上、ご使用ください。**

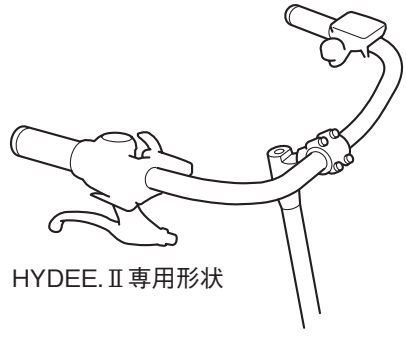
2. チャイルドシートを装着する自転車について

①本チャイルドシートは「HYDEE.Ⅱ専用」です。（タイヤサイズ：26インチ）
装着する際は販売店にご相談ください。

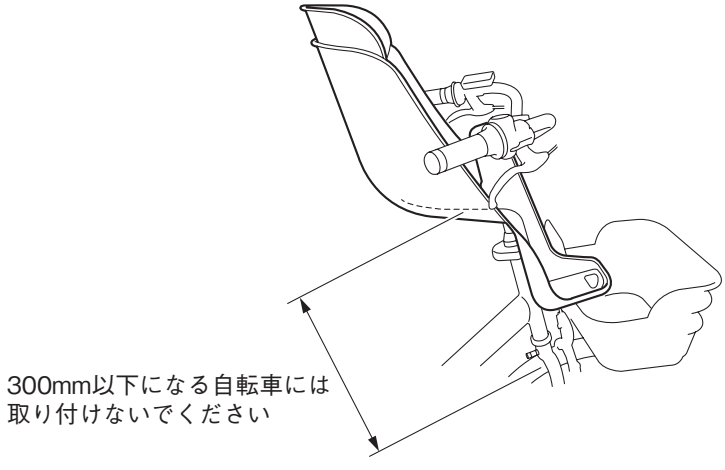
②本チャイルドシートを装着する場合は、専用形状のハンドルポストが必要です。その他の形状のハンドルポストには装着できません。



③組み付け可能なハンドルバーはHYDEE.Ⅱ専用形状です。
その他のハンドルバーは装着できません。



④座面と前車輪との距離が300mm以下になる自転車には取り付けないでください。



⑤3人乗り（幼児2人同乗）自転車に取り付ける際は、販売店に相談するか、自転車の表示や取扱説明書を確認し、取り付けできる自転車がこのチャイルドシートを幼児2人同乗座席に指定している場合には取り付けることができます。

⑥バスケットを装着する場合は、別売りのHYDEE用オプションバスケットを使用してください。それ以外のバスケットは使用しないでください。
オプションバスケットにつきましては、ご購入いただいた販売店へお問い合わせください。

⚠ 注 意

- **オプションバスケットをご使用される場合、お子様の体格によっては、足がバスケットに当たる場合があります。
その際は、無理な乗せ降ろしをすることは危険ですのでおやめください。**

3. 取り付け時の注意

⚠ 注 意

- **安全にご使用いただくために、お買い上げいただいた販売店での取り付けをお願いします。**
- **一般のシティ車に取り付けるチャイルドシートは1つに限ります。**
- **幼児2人同乗用自転車に取り付けるチャイルドシートは、前後各1つに限ります。**
- **取り付け時は、ネジやナットを確実に締めてください。**
- **ハンドルストッパーやロック付きの両立スタンドを取り付けてお使いください。**
- **自転車のハンドルを上下する必要があるときには、必ず販売店にご相談ください。**

ご使用時の注意

⚠ 注 意

- 自転車にチャイルドシートを取り付けてお子様を同乗する場合、取り付けてない場合と比較して自転車のハンドル操作性、走行安定性、制動性能が低下します。
  このため、事前に安全な場所で、十分に走行練習してからご利用ください。
- チャイルドシートのシール表示や取扱説明書をご確認の上、ご使用ください。

1. お子様をチャイルドシートに乗せる前は

⚠ 警 告

- お子様の体重、年齢、身長等の範囲をお守りください。
- 本体、足乗せ、グリップ、ヘッドガード、ハンドルバー、ハンドルポストの取り付けネジ等が、しっかり締まっているか、日常点検を行ってください。
- 使用するときはチャイルドシート及びハンドルバー、ハンドルポストが確実に取り付けられていることを確認し、破損・変形等したまま使用しないでください。また、シートベルトが傷んでいないか確認してください。少しでも異常を感じた場合は使用を中止し、販売店にご相談ください。
- お子様にはヘルメットを着用させて使用してください。着用しない場合、事故時に重傷あるいは死亡につながるおそれがあります。着用した場合、軽傷ですむことが報告されています。また、運転者もヘルメットを着用するようおすすめします。
- お子様には必ず靴を履かせてください。
- 夏の炎天下では、直射日光が当たるシートクッションの温度は高温となります。自転車を炎天下に放置した場合は、お子様をチャイルドシートに乗せる際、やけどに十分注意してください。
- 一般のシティ車に同乗できるお子様は1人です。また、3人乗り（幼児2人同乗）の自転車に同乗できるお子様は2人までです。それぞれの自転車で使用できるお子様の年齢、体重、身長の範囲を守ってください。
- スタンドが安定した状態で立っているか確認をしてください。またスタンドのロックがかかっていることも確認してください。
- この商品はSGマーク認定基準を満たしていますが、大きな衝撃が加わると破損・変形・クラック等が発生することがあります。一度でも大きな衝撃を受けた場合は使用をやめ、十分点検してください。（また、販売店に点検を依頼してください。）

2. お子様をチャイルドシートへ乗せ降ろしするときは

⚠ 警告

- お子様は、荷物よりも後に乗せ、最初に降ろしてください。
- お子様を乗せるときには必ず正しい姿勢になっている事を確認し、特に足が車輪に巻き込まれることのないように注意してください。
- お子様が一人でチャイルドシートに乗り降りしないよう注意してください。自転車が倒れるおそれがあります。
- チャイルドシートからお子様を降ろすときは、お子様の体がシートベルトやハンドルバーなどに引っかからないように注意しながら降ろしてください。お子様がシートベルトに引っかかったまま勢いよく降ろそうとした場合、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。

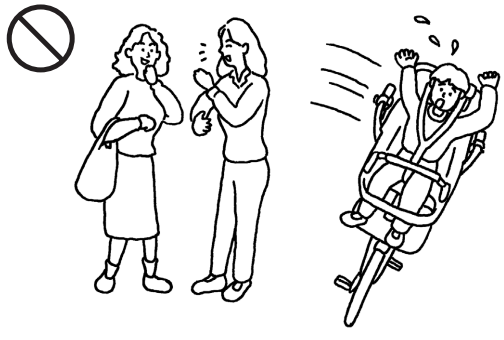
お子様を抱いて乗せ降ろししてください

- 自転車を停車（駐輪）する場所はスタンドを立てたときに安定する場所を選んでください。
  またスタンドのロックも必ず掛けてください。
  自転車が転れ、お子様が重篤なケガを被る場合があります。
- ハンドルロック機構のある自転車は、ハンドルロックをした後にスタンドを立ててください。
- お子様をチャイルドシートから降ろした後は、シートベルトをバックルに嵌めてください。
  外した状態で走行すると、ベルトが車輪に巻き込まれたり、思わぬところに引っかかりハンドルをとられて、転倒するおそれがあります。

3. お子様をチャイルドシートに乗せたら

⚠ 警告

- 必ずシートベルト（肩ベルト・腰ベルト・股ベルト）を使用してください。
- お子様の首に肩ベルトがかからないように注意してください。
- シートベルト（肩ベルト・腰ベルト・股ベルト）が車輪に巻き込まれないように注意してください。
- ヘッドガードは必ず適正な高さで使用してください。
- お子様がグリップをしっかりと握るようにしてください。
- お子様を乗せたまま自転車から短時間であっても手を離さないでください。自転車が倒れてお子様がケガをするおそれがあります。



4. 走行時は

⚠ 警告

- 傘を差しながらなどの片手運転など、危険な行為は絶対にしないでください。
- お子様が乗車中はグリップを握らせてください。自転車のハンドルを握らせると、スキマに手・指をはさむおそれがあります。
- お子様が眠らないように注意してください。
- お子様がテモトデロックのレバーやメインスイッチを操作しないよう注意してください。走行中にハンドルがロックしたり電源が切れたりしてバランスを崩し転倒や事故につながる危険性があります。
- 段差のある場所ではお子様を乗せたまま走行しないでください。
- 走行中にお子様がチャイルドシートの中で立ち上がったり暴れたりしないよう、注意してください。
- 使用に当たっては交通法規を守ってください。
- 使用中、お子様の手足が届く範囲に自転車用錠がある場合、錠が作動して思わぬ事故につながるおそれがありますので、十分注意してください。

5. 幼児2人同乗時の注意

⚠ 警 告（危険です、必ずお守りください！）

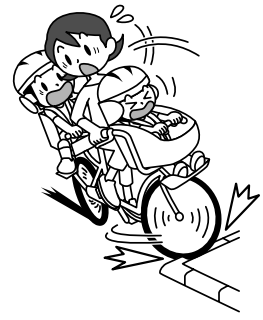
- お子様を2人同乗させて自転車に乗るときはスニーカーなど、かかとの低い靴をはいてください。また、スリッパや足から脱げやすい靴ははかないでください。
  ペダルから足を踏み外すと、転倒する危険があります。

- フロントチャイルドシートによって、前方（特に下側）が見えにくくなります。このため、安全な場所で視界の確認をしてから使用してください。また、見える範囲の前方の障害物によく注意してください。

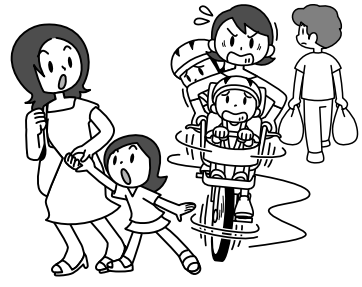
- お子様を2人同乗させた時は、自転車は同乗させない時に比べ運転しづらくなり、転倒する危険が増します。
  ・お子様の乗せ降ろしや自転車の押し歩き・走行を安全な場所で練習してから使用してください。
  ・発進時や低速走行時には、ハンドルが振れることがあるので、特に注意してください。

- 道路に傾斜や段差や溝があるときはハンドルをとられやすいので、押して歩くか、ゆっくり注意して通過してください。

- お子様を2人同乗させた時は、自転車全体の重さが増えるので、ハンドル操作に大きな力が必要になり、押し歩き時にもバランスを崩し、自転車の立て直しができずに転倒しやすくなります。このため、下記に注意してください。
  ・ハンドルを急に切らないでください。
  ハンドルを大きく切った際に、前輪が前または後に意図しない回転をして転倒することがあります。傾斜面や路面の凹凸があるところでは、特に起こりやすくなります。

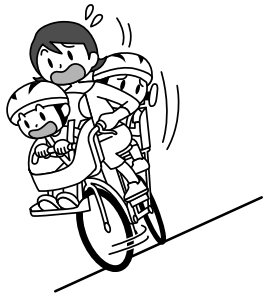


  ・歩行者などとすれ違う際によけるときは、ハンドル操作などに注意してください。
  狭いところを押し歩いたり、歩行者や自転車と接触したり、同乗させているお子様の動き、路面の凹凸傾斜などによりバランスをくずしやすくなります。



⚠ 警告（危険です、必ずお守りください！）

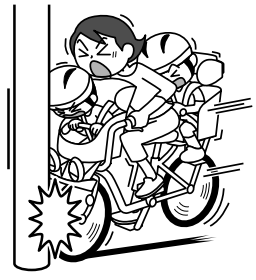
●バランスをくずしにくい押し歩きの方法
押し歩き時には同乗のお子様の動きや路面の凹凸・傾斜などによるわずかなバランスのくずれによって、自転車の立て直しができずに転倒することがあるので、お子様を自転車から降ろして押し歩きをしてください。
やむをえず、お子様を同乗させて押し歩きを行う場合には、転倒の危険がありますので、以下の事項を考慮して慎重に押し歩きを行ってください。



・自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルを握り、ブレーキがすぐにかけられるようにしてください。

・同乗のお子様が動かないように注意するとともに、路面の凹凸・傾斜などに注意して、バランスをくずさないようにしてください。
・押し歩きのための十分な空間がある場所であることを確認し、混雑した場所ではバランスをくずしやすいので、お子様を同乗しての押し歩きはやめてください。

●お子様を2人同乗させた時に衝突などの事故を起こした場合、自転車全体の重さが増えているので、同乗させないときに比べて衝突時の衝撃が大きくなります。このため、衝突などの事故を起こした場合は、同乗のお子様、運転者本人の被害が大きくなります。
また、歩行者や物に衝突などの事故を起こした場合も、同じく歩行者や物の被害（けが）が大きくなります。



※以上のことは、お子様を1人のみ乗せた場合も同じですので、注意してください。

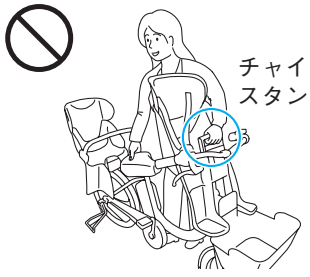
6. 保管のしかた

⚠ 警 告

- チャイルドシートを安全にご使用いただくために、異常がなくても、シートベルトは2年に1度の交換をお勧めします。
  なお、シートベルトの交換につきましては、販売店へお問い合わせください。
- チャイルドシート本体やシートベルト、バックルに異常が認められる場合は、そのまま使用せず販売店へご相談ください。

⚠ 注 意

- 駐輪時等で、自転車を持ち上げる必要があるときに、チャイルドシートをもって持ち上げないでください。想定外の負荷により、チャイルドシートが破損する場合があります。

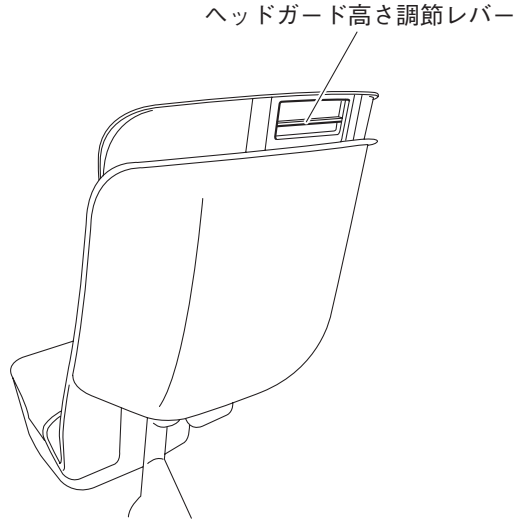


- チャイルドシートは直射日光をさけて駐輪、保管し、雨ざらしにしないでください。早期劣化の原因となります。

- シートクッションのお手入れ方法
  シートクッションが汚れた場合は、水を含ませて絞ったタオルなどで拭きとってください。

各部の名称

ヘッドガード
肩ベルト
上クッション
肩パッド
グリップ
肩ベルト調整バックル
中クッション
バックル
腰ベルト
股ベルト
足乗せ：右
股ベルトパッド
下クッション
足乗せ：左

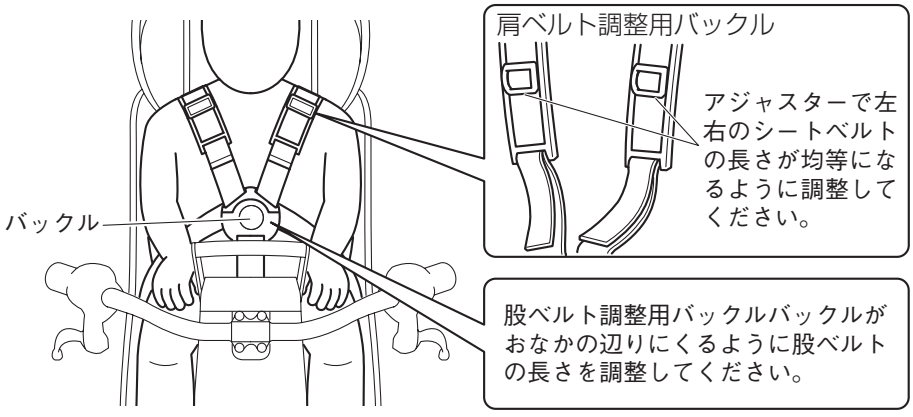

ヘッドガード高さ調節レバー

チャイルドシートの操作方法

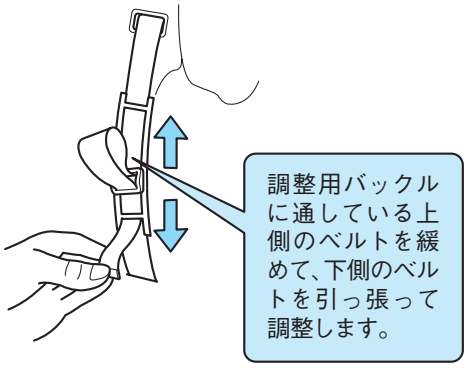
1. シートベルトの調整

●シートベルトはお子様の体格や服装に合わせて長さを調整してください。
①股ベルト調整用バックルを操作して、股ベルトの長さを調整します。
②肩ベルト調整用バックルを操作して、肩ベルト（左右）の長さを調整します。

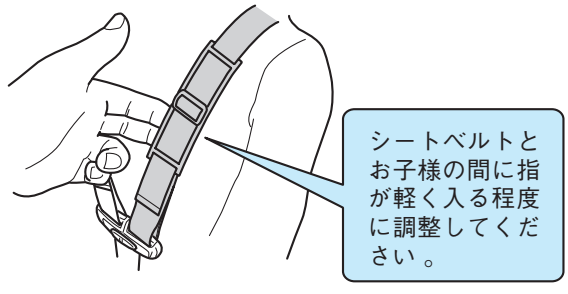
調整用バックルについて

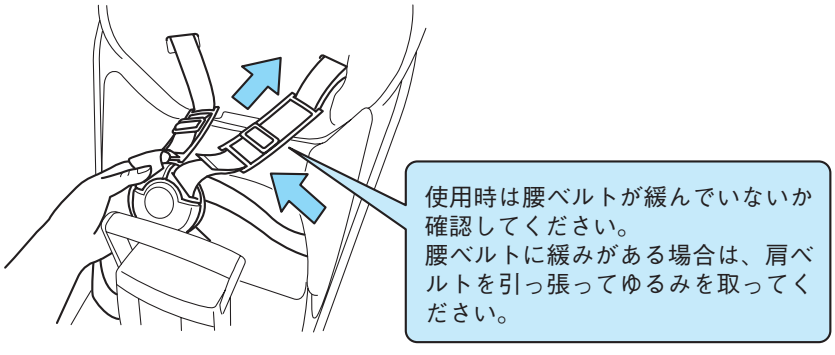


●調整用バックルの調整の仕方



⚠ シートベルト調整時のポイント

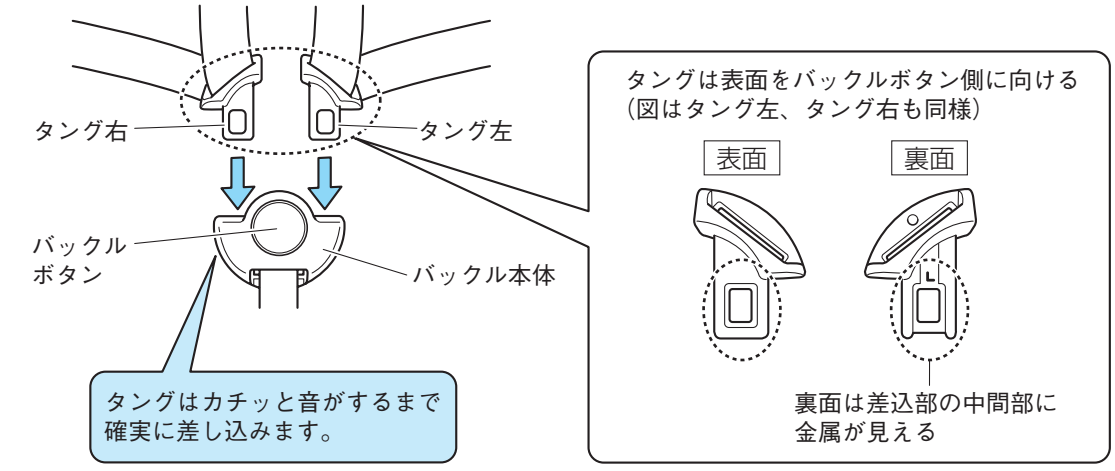




2. バックルの固定・解除

●タングは左右別々に固定し、左右同時に解除することが出来ます。

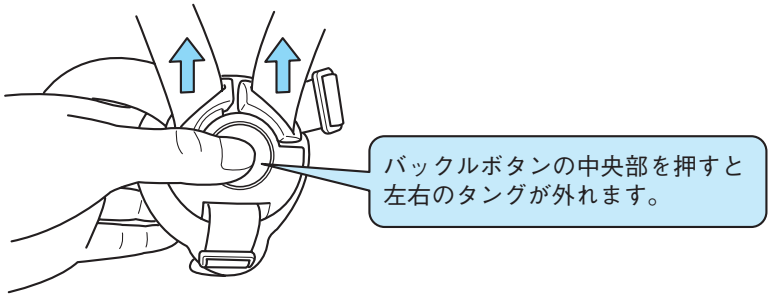
固定する時



⚠ 警告

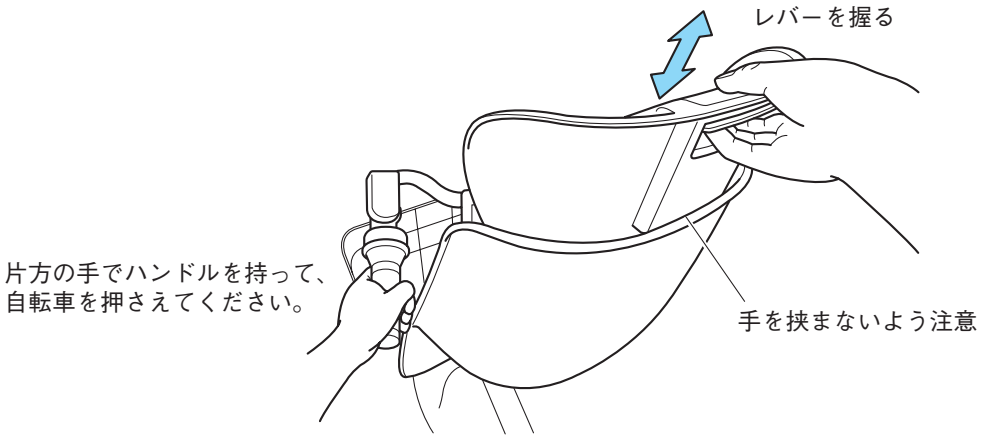
●タングを差し込んだら、左右のタングを軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。

外す時



3. ヘッドガードの高さ調節

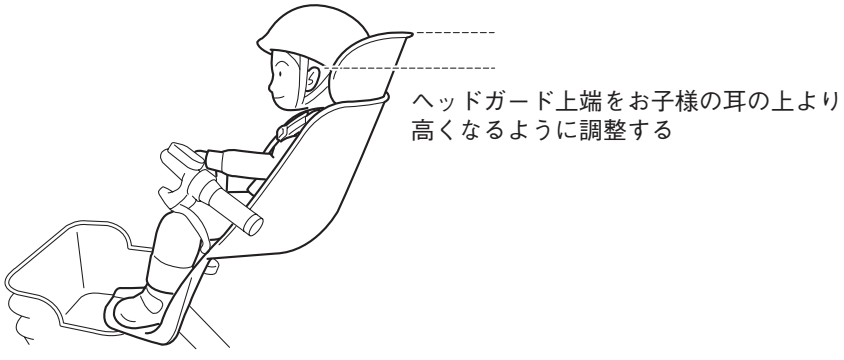
①ヘッドガード高さ調節レバーを握ると、ヘッドガードを上下させることができます。



②ヘッドガードを適切な高さに調節したら、レバーから手を離します。

③レバーから手を離すと、カチッと音がしてヘッドガードが固定されます。

④ヘッドガードを軽く上下に動かし、確実に固定されたことを確認してください。
ヘッドガードはお子様の体格に合わせて高さを調整してください。



⚠ 注 意

●ヘッドガードの高さ調節の際は、ヘッドガードと本体の隙間で手を挟まないように注意してください。

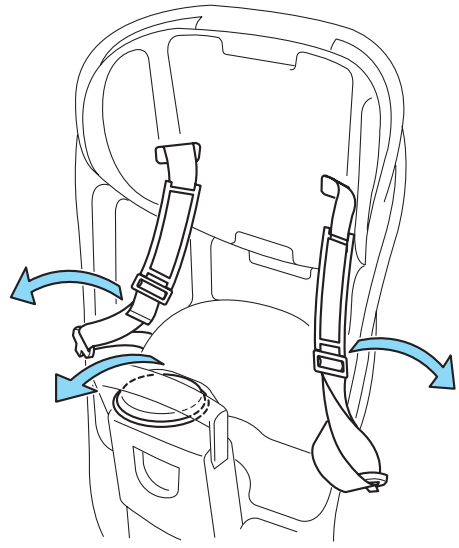
お子様の乗せ方

①バックルボタンを押して、バックルからタングを外します。

②左右の肩ベルトと股ベルトを広げ、お子様をクッションの上に座らせます。

⚠ 注 意

- **オプションバスケットを装着している場合は、お子様の足がバスケットにあたらないようご注意ください。**



③肩ベルトの間にお子様の腕を通して、肩にかけます。

④左右のタングをバックルに差し込んでいき、カチッと音がするまで差し込みます。

⚠ 警 告

- **差し込んだら、左右のタングを軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。**

⑤肩ベルトの長さを調整し、肩ベルトと腰ベルトの緩みを取ります。

⚠ 警 告

- **ベルトに緩みやねじれのないようにしてください。ねじれている場合、事故の際に重大な傷害を負う可能性があります。**

お子様の降ろし方

①バックルボタンの中央を押して、バックルからタングを外します。

②お子様をチャイルドシートから降ろします。

③タングをバックルに嵌めます。
お子様を乗せていない時でもシートベルトのバックルをはめるようにしてください。
（バタツキ防止のため）

ブリヂストンサイクル株式会社

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3丁目1－1

お客様相談室

受付時間： 9:00～12:00 ／ 13:00～17:00
（土・日・祝日及び弊社指定休日は休み）

フリーダイヤル： 0120-72-1911
（国際電話・インターネット電話
でのご利用はできません。）

IA01-108
4, A